

「水俣湾をしゅんせつ 袋湾をうめたてる」

農林省の現地調査決まる

衆院水俣調査団の帰京第一回会合（十日）で打ち出された対策案のうち各省に関係する事項として「水俣湾をしゅんせつし、袋湾を埋め立てる」ことについて、その技術的可能性を検討するため農林省から現地調査に出向くことが十二日決まった。この水俣湾の積溜泥土除去は地元漁民から強く要望されていたもので、調査団は対策案でもとくに取りあげた。上京中の県議会水俣特対委の田中、深水正副委員長、長野委員らもこの点を調査団に陳情、閣議のうえ、農林省担当官が福岡へ出張するのを機会に熊本まで調査の足をのばすよう依頼、承諾を得たもの。

明るい根本的な対策

調査係官は農林省農地局計画部の小川孝技術課長と同課藤田純市干拓技術課長の二人で、十四日東京をたち福岡での調査をすませたあ

と熊本入りするが、その日程は未定。計画は大がかりな事業であるため調査結果をまたねば実現性はわからないが、摘海に合わせ

と四九五秒の新農地造成をねらい、水俣問題にも明るい根本対策と考えられている。（東京支社）